

B—68 女子学生の被服生活の実態とその分析

茨城キリスト教短大 佐藤 京子

1. 流行のはげしいうつり変わりと、繊維工業の発達は、被服生活を豊かにする反面、ややもすると、必要の限度を越えて、被服を新調する傾向となる。この消費生活の実態を知り、それを分析して、被服教育の一指針としたいと思いこの研究をおこなった。

2. 調査の対象は本学家政科の学生、および東京都内の私立女子高校の生徒で、調査用紙に記入をもとめた。

3. 日常服、休養服、外出着および社交服、コート類、下着類、アクセサリーの類において、それぞれの所持数、服型、材質、使用の年数、管理のしかた、などについて調査してみたが、その被服生活の実態は、全体としてみたときは比較的堅実な状態であったが、こまかい点になるといくつかの問題がみられる。そのなかでもとくに問題とみなされるのは、下着の種類と所持数について、日常服の着用状態などについてで、後者には現代の消費経済生活の一面があらわれており、今後の被服教育への課題があると思われる。